

令和6年度 学校評価結果について

1 実施方法及び時期

(1) 自己評価について

- 教職員による自己評価【資料1】……………各項目 百分率 (%)
7月、12月 (年2回)
- 保護者による外部アンケート【資料2】……………各項目 百分率 (%)
7月、12月 (年2回)
- 生徒アンケート【資料3】……………各項目 百分率 (%)
7月、12月 (年2回)
- (2) 鉾北ひまわり学園の委員【資料4】……………各項目 百分率 (%)
によるアンケート 2月 (年1回)

2 考察及び成果と課題

(1) 確かな学力

1 授業改善	①生徒が考えを伝え合える場の設定 ②対話や説明をする上での生徒のICTの活用 ③生徒の考えを引き出す学習課題や発問の工夫 ④確実な振り返りの実施 (できたこと・分かったことのアウトプット)
2 基礎的・基本的な学力の定着	⑤ミニテストの実施 ⑥個に応じた指導

自己評価アンケートから

【教職員アンケート】

○生徒の考えを伝え合える場面を設定している。	7月 100.0→12月 100.0
○対話や説明の場面で、積極的にICTの活用を行っている。	7月 93.8→12月 88.2
○生徒の考えを引き出すための、学習課題や発問等の工夫をしている。	7月 100.0→12月 100.0
○確実な授業の振り返りの充実に努めている。	7月 87.6→12月 88.2
○学力の定着を目指したミニテストを行っている。	7月 56.3→12月 64.7
○学習場面に応じて、個に応じた指導をしている。	7月 87.6→12月 100.0

【生徒アンケート】

○先生は授業の中で、考えや思いを伝え合う場面を設けている。	7月 96.2→12月 95.1
○先生は自分の考えや思いを伝え合う授業の中で、ICT機器を活用している。	7月 95.7→12月 96.1
○先生は授業の中で、学習課題や発問を分かりやすく説明している。	7月 96.8→12月 97.3
○授業の中では、学習の振り返りを行っている。	7月 96.7→12月 95.0

【保護者アンケート】

○学校はICT機器を活用し、自分の考えや思いを伝え合う授業を行っている。	7月 88.1→12月 89.0
○学校は授業を通して、学習課題や発問の工夫を行い、生徒の意欲を高めている。	7月 85.5→12月 90.6
○学校はミニテスト等を実施しながら、学習の基礎基本の定着を図っている。	7月 89.7→12月 92.1
○学校は、生徒一人ひとりに応じた学習指導をしている。	7月 74.4→12月 80.3

【今年度の主な取組】

- ◎校内研修による専門性の向上
 - ・県事業を活用した授業力の向上
 - 教科に関する研究

・主な研修の取組について

実 施 日	事 業 実 施 内 容
6月17日（月） 8月8日（木） 11月11日（月） 2月12日（水）	教科に関する研究 講師：青山学院大学 茨城県教育研修センター 指導主事 益川 弘如 教授 指導主事 大槻 峻史 先生 指導主事 星野 優子 先生 指導主事 濱田 真実 先生 指導主事 八木 千鶴 先生 指導主事 荒川 紗織 先生
10月11日（金）	計画訪問指導 講師：銚田市教育委員会 同 副参事 筒井 直子 先生 指導主事 内海 誠之 先生

研究テーマ「生徒の学びをつなげる力を高める授業実践」

～授業改善に向けた校内研修の実践を通して～

今年度、自立した学習者の育成を目指して、学びをつなげる力を以下の3つの柱で取組み、これらの力を高めるための授業改善を図ってきた。

- ①「課題に対して自分の考えをもつために知識と知識をつなげる力」
- ②「自分の考えを伝えることで生徒同士がつながる力」
- ③「新しい課題発見につなげる力」

【主な成果】

①生徒の変容

- ・自分の意見を率先して話す生徒が増えた。
- ・分からない時に、自然に話し合いを行なうようになった。
- ・意見を取り入れたり、比較したりしながら、自分の考えをもとうとする生徒が増えた。
- ・考えを意欲的に他者に伝えたり、自分で課題を見出して、次の活動に活かそうとしたりしている姿が見られた。
- ・考えの根拠について、理由が説明できる場面が増えた。
- ・ICTを活用しながら、生徒が表現する活動の場面が増えるようになった。
- ・振り返りを通して、知識の定着が図れるようになった。
- ・実態把握に基づいた授業の工夫から、生徒の理解力が高まった。

②教師の変容

- ・生徒の反応や取組を見ながら、学校目標に向けて、生徒に必要なことは何か考え授業改善をするようになった。
- ・いろいろな考えや取組を共有することで、考えが広がりプラスにつながった。
- ・授業スタイルが様々あり、楽しそうな授業が増えた。
- ・教師個人から、教科を越えたアドバイスし合える「チーム」になってきている。

【考 察】

- ・授業者の資質能力の向上に向け、教師の説明時間を15分以内、定期的な板書の作成を通して年間を通した指導力向上に対する意識が高まり、授業改善が進んだ。
- ・主体的・対話的で深い学びを目指した「銚田市授業スタイル2nd」を踏まえた授業の実践、StuDX推進事業により一人一台のタブレットの積極的かつ多様な活用が図られ、生徒たちの学ぶ意欲や態度に向上が見られた。
- ・訪問指導における専門的な指導により、教職員の生徒理解や指導力の向上を図ることができた。

【課題】

- ・生徒の学力向上を目指し、さらに校内研修の充実を図っていく。
- ・相手に伝わるように、十分に表現できない生徒への対応を図る。
- ・理解力が不足している生徒のための基礎・基本の定着への対応を図る。
- ・読書量の関係から、文章に触れる機会が減少し、文章の理解や要約力の低下につながっている現状への対応を図る。

(2) 豊かな心

3 主体的に取り組む特別活動	①学級活動、集会等で生徒が自分の考えを伝え合う場の設定 ②生徒がつくる学校行事
4 自己有用感、自己存在感のもてる学年・学級経営	③仲間同士をつなぐエンカウターの実施 ④人権教育の推進 ⑤教育相談の充実（SC との連携）
5 道德教育の充実	⑥学年道德の推進 ⑦校内研修の充実
6 地域資源を生かした体験活動の充実	⑧職業体験、農業体験等

自己評価アンケートから

【教職員アンケート】

- 活動場面において、自分の考えを伝え合う場の設定を工夫している。 7月 100.0→12月 100.0
- 学校行事が、生徒主体の活動となるよう努めている。 7月 100.0→12月 100.0
- 生徒同士のよりよい関係づくりのために、エンカウターの実施に努めている。 7月 87.6→12月 88.2
- 教育活動全体において、人権教育の実現に向けた取組を行っている。 7月 100.0→12月 100.0
- 複数担任や SC との連携を通じて、生徒理解に努めている。 7月 100.0→12月 88.2
- 道徳性を養うために、学年道德を含めた道徳科の授業の工夫に努めている。 7月 100.0→12月 100.0
- 体験活動の機会を設け、将来につながる活動となるよう努めている。 7月 100.0→12月 94.1

【生徒アンケート】

- 先生は学級活動や集会の中で、考えや思いを伝え合う場を設けている。 7月 97.8→12月 97.3
- 自分は、学校行事「生徒総会・スポーツフェスティバル・秋穂祭等」に積極的に取り組んでいる。 7月 94.6→12月 95.1
- エンカウターの実施により、友達との関係づくりに活かしている。 7月 94.0→12月 88.0
- 人権尊重の意味を理解し、生活の中で生かしている。 7月 97.9→12月 96.1
- チーム担任制により、担当の先生方やスクールカウンセラーの先生との相談がしやすい。 7月 92.4→12月 89.6
- 自分は、道德の学習に進んで取り組んでいる。 7月 97.3→12月 92.9
- 農業体験・職業体験、その他の体験活動に積極的に取り組んでいる。 7月 98.4→12月 94.5

【保護者アンケート】

- 学校は生徒主体となる学校行事の活性化を図っている。 7月 97.4→12月 96.1
- チーム担任制は、教育相談の充実に有効である。 7月 84.7→12月 91.4
- 学校は、地域との連携を通して、様々な体験活動の充実を図っている。 7月 97.5→12月 93.7

【主な成果】

- ①特別支援教育の視点を生かした学年・学級経営の推進
 - ・個別の教育支援計画および個別の指導計画に基づく支援策の共通実践
 - ・エンカウターの実施による円滑な生徒同士の人間関係づくり

②積極的な生徒指導・教育相談体制の充実

- ・解決思考型アプローチによるガイダンスとカウンセリング機能の充実
- ・毎週月曜日の運営委員会、月一度の生徒指導協議会等による共通理解の充実
- ・関係機関との連携（ＳＣ、ＳＳＷ、子ども家庭課、児童相談所）

③考え、議論する道德の充実

- ・学年道德の実施
- ・道德主任、道德教育推進教師中心に校内研修の充実

【考 察】

- ・複数担任制をもとに教職員がチームとして指導にあたる生徒指導体制が機能し、迅速かつ適切な対応ができた。
- ・ＳＣによるＱＵテストの内容に関する研修を通じて、学級内生徒の関係や生徒自身の状況を具体的に捉えながら、学級指導・生徒指導につなげることができた。
- ・定期的な職員による教育相談やスクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーの活用により、相談体制の充実を図るとともに問題行動等に適切に対応できた。

【課 題】

- ・不登校生徒数の減少には至らなかったが、休みがちな生徒への対応として外部機関との連携を進めながら、今後も校内支援体制の強化を図っていく必要がある。

(3) 健やかな体づくり

7 主体的に取り組む 体力づくりの実践	①体育の授業における運動量の確保 ②グループ活動やICTを活用し、楽しみながら運動できる授業の実践
8 危機管理能力の育 成	③自分の命は自分で守る
9 保健安全指導の徹 底	④早寝・早起き・朝ごはんの推進

自己評価アンケートから

【教職員アンケート】

- | | |
|--|--------------------|
| ○保健体育や部活動では、運動量の確保に努めている。 | 7月 100.0→12月 100.0 |
| ○授業や部活動など体力づくりのために、グループ活動やICTを活用するなど、主体的に取り組めるように工夫している。 | 7月 100.0→12月 100.0 |
| ○訓練活動や感染症予防、交通安全指導など、自分の命は自分で守ろうとする意識を喚起している。 | 7月 100.0→12月 100.0 |
| ○「早寝・早起き・朝ごはん」など、生活習慣の定着に努めている。 | 7月 100.0→12月 100.0 |

【生徒アンケート】

- | | |
|--|------------------|
| ○保健体育の授業ではたくさん運動し、進んで運動に取り組んでいる。 | 7月 93.5→12月 94.6 |
| ○保健体育のグループ活動を通して、課題解決に向けてICTを活用したり、ゲームの作戦を考えたりするなど楽しみながら取り組んでいる。 | 7月 94.1→12月 93.4 |
| ○定期的な避難訓練、感染症予防や交通安全など、自分の命は自分で守ろうと意識している。 | 7月 97.8→12月 96.2 |
| ○自分は、早寝・早起きをし、朝食を食べている。 | 7月 85.9→12月 86.3 |

【保護者アンケート】

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| ○学校は、訓練活動や保健・安全に向けた生徒への啓発を行っている。 | 7月 95.8→12月 95.3 |
| ○生徒は、日頃から早寝早起きをし、朝食を摂っている。 | 7月 87.2→12月 90.5 |

【主な成果】

①体力テストの結果より

- 種目別に見ると、男女ともに全学年において反復横跳びの数値が県平均を上回ることができた。また、3年生女子を除き、握力と立ち幅とびで県平均を上回っている。
- 昨年度柔軟性をアップするプランを策定したところ、今年度2年生女子と3年生女子の柔軟性の伸びが見られた。
- 昨年度の本校の数値よりA+Bの評価の割合が4.2%減少した。D評価の生徒の割合が減少し、E評価の生徒の割合が増えた状況から、全体的に運動能力の低下が考えられる。種目別で見ると、長座体前屈とハンドボール投げが6クラス中2クラスしか県平均を超えることができなかった。

②効率的・効果的な取組による部活動での成果

県東地区陸上競技大会	・県出場：男子200m、男子400m、男子走幅跳、男子走高跳 男子4×100mリレー 女子100mH、女子3年100m（1位）、女子800m 女子走幅跳、女子4×100mリレー ・関東、全国大会出場：女子3年100m
県東地区駅伝大会	・男子9位（昨年度13位）、女子13位（昨年度19位） 総合8位（昨年度14位）

<県及び県東地区総合体育大会・新人体育大会等での成果>

県東地区総合体育大会	・女子卓球部 - 団体 3位（県大会出場） - 個人 シングル7、8、9位（県大会出場） ダブルス ベスト8 ・軟式野球部 - ベスト4 ・水泳 - 個人（県大会出場）
県東地区吹奏楽コンクール	・吹奏楽部 優秀賞
県東地区新人体育大会	・軟式野球部 第2位（県大会出場） ・卓球部男子 個人13位（県大会出場） ・卓球部女子 個人5、9位（県大会出場） ・剣道部女子 個人5位（県大会出場） ・水泳女子 個人自由形（県大会出場） ・陸上 2年女子100mH（県大会出場） 1年女子800m（県大会出場） 1年男子1500m（県大会出場）

③保健・安全教育の充実

- ・「生きる教育講演会」（陳 央仁先生）
- ・「救命救急AED講習会」（鉾田消防署員）
- ・「ケータイ・スマホ教室」（KDDI）
- ・学校防災に向けた避難訓練（救助袋使用）
- ・「薬物乱用防止教室」（ライオンズクラブ）
- ・「がん教育講演会」（2年）（保健センター）
- ・「ヨガ教室」（3年）
- ・交通安全教室（1年）
- ・避難訓練（不審者対応）

【その他】

①生徒会・実行委員会・委員会による活動の充実

- ・生徒会（ボランティア委員会）が中心となった「人権フォーラム」（6月・12月）の開催
- ・「マナーアップ運動」への取組（年2回、鉾田北小学校 生徒・職員）
- ・スポーツフェスティバル、分団対抗ドッジボール大会

②幼小中連携による教育活動

- ・小中交流授業参観（計画訪問等での相互授業参観）
- ・幼小中連絡協議会（行事等の確認・・・合同引き渡し訓練、運動会ボランティア等）
- ・幼小中合同研修会（鉾田消防署による救命救急法の研修）

③教職員の相談体制の充実

- ・複数担任および学年主任、養護教諭など管理職以外の相談窓口の開設

④働き方改革の推進

- ・日課表の変更（朝読書、清掃、部活動時間の工夫）
- ・学期末事務処理期間の設定（5時間授業の工夫）
- ・諸会議等の運営改善（職員会議の焦点化、運営委員会・主任会の開催、要項の事前配布の確認）
- ・保護者宛文書の電子化（一部印刷・配付）
- ・全校朝会のオンライン化、職員朝会の廃止
- ・鑑賞の授業を充実させることによる生徒作品の廊下掲示廃止

⑤コンプライアンス研修（ボトムアップ研修、トップダウン研修）の充実

- ・研修テーマを教職員が企画運営（12回）＋通知通達をもとに管理職より指導（随時）

【考 察】

- ・熱中症対策等で、部活動の活動時間に制約がある期間があったが、総体や新人戦に向けて目的意識を維持し熱心に練習に取り組んだ。その結果、陸上競技会や総合体育大会、新人戦および駅伝大会において県大会に出場を果たし、さらに陸上競技での関東・全国大会に出場するなど大きな成果を上げた。
- ・保健・安全教育の充実において、外部講師を活用した体験活動を重視した学びの充実が図られた。生徒自身が「自分の身は自分で守る」ために、多面的な活動を通して意識を高めることができた。
- ・生徒会・ボランティア委員会を中心に、「人権フォーラム」を開催し、人権意識を高め、いじめの防止に取り組んだ。さらに、「性的マイノリティ」に関する講演を通じて、性的差別の防止についての意識を高めることができた。
- ・幼小中連携による小中交流授業参観では、計画訪問などを活用した相互授業参観を実施し、また幼小中の連絡協議会では、幼稚園での運動会へのボランティア協力や小学校での吹奏楽ミニコンサートなど、幼小中連携に向けた確認の場として有効な機会となった。
- ・働き方改革の推進や業務改善に向け多くの取組みを行ってきた。今後も更に時間外勤務の削減を目指し業務改善策を検討する。
- ・校内コンプライアンス研修計画のもと計画通りに実施できた。その他、必要に応じてミニ研修や臨時の研修を行い、職員への共通理解を図りながら、服務規律の確保への周知徹底を図ることができた。

学校グランドデザインと学校評価に係るアンケートの結果(教職員)

令和6年度12月 銚田市立銚田北中学校 項目別評価 ◎90%以上 ○80%以上 □70%以上 ☆60%以上 ×50%以上 ××50%未満

グランドデザインと学校評価に関する項目			教職員アンケートの結果							
			7月	達成度	7月	12月	達成度	12月	達成度	増減
期待する 生徒像		①目標を達成するために努力できる生徒 (生徒一人一人の長所を伸ばし、目標達成に向けて支援している)	100.0	◎	96.9	100.0	◎	97.1	◎	0.0
		②自分で考え、判断し、行動できる生徒 (自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成に心がけている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
		③思いやりと感謝の心をもてる生徒 (思いやりや感謝の心をもてる生徒の育成に心がけている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
		④地域との絆を大切に、「貢献」できる生徒 (学校や地域のために自ら役に立とうとする生徒の育成に心がけている)	87.5	○		88.2	○			0.7
めざす 教師像		①常に学び続ける教師 (常に教師としての資質向上を目指し、自己研鑽に努めている)	100.0	◎	100.0	100.0	◎	96.1	◎	0.0
		②一人一人の生徒に最後までかかわれる教師 (個々の生徒に熱心にかかわることを心がけている)	100.0	◎		94.2	◎			-5.8
		③組織の中で協働できる教師 (学校組織の一員として、互いに協力して取り組んでいる)	100.0	◎		94.1	◎			-5.9
学校経営		①組織目標 自分の考えや思いを伝え合う力を高める (組織目標「自分の考えや思いを伝え合う力を高める」を目指して教育活動に取り組んでいる)	100.0	◎	100.0	100.0	◎	100.0	◎	0.0
確かな学 力	授業改善	①生徒が考えを伝え合える場の設定 (生徒の考えを伝え合える場面を設定している)	100.0	◎	87.5	100.0	◎	90.2	◎	0.0
		②対話や説明をする上での生徒のICTの活用 (対話や説明の場面で、積極的にICTの活用を行っている)	93.8	◎		88.2	○			-5.6
		③生徒の考えを引き出す学習課題や発問の工夫 (生徒の考えを引き出すための、学習課題や発問等の工夫をしている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
		④確実な振り返りの実施【できたこと・分かったことのアウトプット】(確実な授業の振り返りの充実に努めている)	87.5	○		88.2	○			0.7
	基礎的・基本的な 学力の定着	⑤ミニテストの実施 (学力の定着を目指したミニテストを行っている)	56.3	×		64.7	☆			8.4
		⑥個に応じた指導 (学習場面に応じて、個に応じた指導をしている)	87.6	○		100.0	◎			12.4
豊かな心	主体的に取り組む 特別活動	①学級活動、集会等で生徒が自分の考えを伝え合う場の設定 (活動場面において、自分の考えを伝え合う場の設定を工夫している)	100.0	◎	98.2	100.0	◎	95.8	◎	0.0
		②生徒がつくる学校行事 (学校行事が、生徒主体の活動となるよう努めている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
	自己有用感、自己 存在感をもてる学 年・学級経営	③仲間同士をつなぐエンカウターの実施 (生徒同士のよりよい関係づくりのために、エンカウターの実施に努めている)	87.6	○		88.2	○			0.6
		④人権教育の推進 (教育活動全体において、人権教育の実現に向けた取組を行っている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
		⑤教育相談の充実(SCとの連携) (複数担任やSCとの連携を通じて、生徒理解に努めている)	100.0	◎		88.2	○			-11.8
	道徳教育の充実	(道徳性を養うために、学年道徳を含めた道徳科の授業の工夫に努めている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
	地域資源を生かした 体験活動の充実	⑥職業体験、農業体験等 (体験活動の機会を設け、将来につながる活動となるよう努めている)	100.0	◎		94.1	◎			-5.9
健やかな 体づくり	主体的に取り組む 体力づくりの実践	①体育の授業における運動量の確保 (保健体育や部活動では、運動量の確保に努めている)	100.0	◎	100.0	100.0	◎	100.0	◎	0.0
		②グループ活動やICTを活用し、楽しみながら運動できる授業の実践 (授業や部活動など体力づくりのために、グループ活動やICTを活用するなど、主体的に取り組めるように工夫している)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
	危機管理能力の 育成	③自分の命は自分で守る (訓練活動や感染症予防、交通安全指導など、自分の命は自分で守ろうとする意識を喚起している)	100.0	◎		100.0	◎			0.0
	保健安全指導の 徹底	④早寝・早起き・朝ごはんの推進 (「早寝・早起き・朝ごはん」など、生活習慣の定着に努めている)	100.0	◎		100.0	◎			0.0

グランドデザインの各項目の平均を見ると、評価◎(達成度90%以上)は全項目中19項目、評価○(達成度80%～90%未満)が5項目という評価が得られました。前回(7月)のアンケートから今回の結果を比較すると、「確かな学力」の各項目の平均値が(+2.7%)の伸びが見られました。項目別で見ると、「授業改善」に向けた「確実な振り返りの実施」では、振り返りの充実に努めながら(+0.7%)の向上が見られました。また「基礎的・基本的な学力の定着」を目指した「ミニテストの実施」では(+8.4%)、「個に応じた指導」では(+12.4%)の向上が見られました。反面、今後の改善が必要な項目について、「ICTの活用」では、教科全体での活用はあるものの、単元の学習内容において活用頻度を高めるなどの工夫が必要です。さらに校内のICT研修の継続を図ってまいります。また「教育相談の充実」では、複数担任制を通して学年内の学級をそれぞれの教師が関わることで、一人一人の生徒を大事にしながら生徒理解を深め、生徒指導に活かしています。教育相談をはじめ、生活アンケートやケース会議など生徒の悩み相談に向けた対応、さらに保護者をはじめスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図りながら対応してまいります。

学校グランドデザインと学校評価に係るアンケートの結果(生徒)

令和6年度12月 銚田市立銚田北中学校 項目別評価 ◎90%以上 ○80%以上 □70%以上 ☆60%以上 ×50%以上 ××50%未満

グランドデザインと学校評価に関する項目			生徒アンケートの結果							
			7月	達成度	7月	12月	達成度	12月	達成度	増減
期待する 生徒像		①目標を達成するために努力できる生徒 (自分は、夢や目標をもち、その達成に向けて取り組んでいる)	90.2	◎	92.4	92.4	◎	90.9	◎	2.2
		②自分で考え、判断し、行動できる生徒 (自分で考え判断しながら行動している)	94.0	◎		93.4	◎			-0.6
		③思いやりと感謝の心をもてる生徒 (思いやりや感謝の気持ちをもって生活している)	98.4	◎		99.0	◎			0.6
		④地域との絆を大切にし、「貢献」できる生徒 (地域を大切にし、地域のために役立とうとしている)	86.9	○		78.7	□			-8.2
めざす 教師像		①常に学び続ける教師								
		②一人一人の生徒に最後までかかわれる教師								
		③組織の中で協働できる教師								
学校経営		①組織目標 自分の考えや思いを伝え合う力を高める (いろいろな場面で自分の考えや思いを伝えようとしている)	87.5	○	87.5	88.0	○	88.0	○	0.5
確かな学 力	授業改善	①生徒が考えを伝え合える場の設定 (先生は授業の中で、考えや思いを伝え合う場を設けている)	96.2	◎	96.4	95.1	◎	95.9	◎	-1.1
		②対話や説明をする上での生徒のICTの活用 (先生は自分の考えや思いを伝え合う授業の中で、ICT機器 を活用している)	95.7	◎		96.1	◎			0.4
		③生徒の考えを引き出す学習課題や発問の工夫 (先生は授業の中で、学習課題や発問を分かりやすく説明し ている)	96.8	◎		97.3	◎			0.5
		④確実な振り返りの実施【できたこと・分かったことのアウト プット】(授業の中では、学習の振り返りを行っている)	96.7	◎		95.0	◎			-1.7
	基礎的・基本的な 学力の定着	⑤ミニテストの実施								
		⑥個に応じた指導								
豊かな心	主体的に取り組む 特別活動	①学級活動、集会等で生徒が自分の考えを伝え合う場の設 定(先生は学級活動や集会の中で、考えや思いを伝え合う場 を設けている)	97.8	◎	96.1	97.3	◎	93.4	◎	-0.5
		②生徒がつくる学校行事 (自分は、学校行事「生徒総会・スポーツフェスティバル・秋 穂祭等」に積極的に取り組んでいる)	94.6	◎		95.1	◎			0.5
	自己有用感、自己 存在感をもてる学 年・学級経営	③仲間同士をつなぐエンカウターの実施 (エンカウターの実施により、友達との関係づくりに生かし ている)	94.0	◎		88.0	○			-6.0
		④人権教育の推進 (人権尊重の意味を理解し、生活の中で生かしている)	97.9	◎		96.1	◎			-1.8
		⑤教育相談の充実(SCとの連携) (チーム担任制により、担当の先生方やスクールカウセ ラーの先生との相談がしやすい)	92.4	◎		89.6	○			-2.8
	道徳教育の充実	(自分は、道徳の学習に進んで取り組んでいる)	97.3	◎		92.9	◎			-4.4
	地域資源を生かし た体験活動の充 実	⑥職業体験、農業体験等 (農業体験・職業体験、その他の体験活動に積極的に取り組 んでいる)	98.4	◎		94.5	◎			-3.9
健やかな 体づくり	主体的に取り組む 体力づくりの実践	①体育の授業における運動量の確保 (保健体育の授業ではたくさん運動し、進んで運動に取り組 んでいる)	93.5	◎	95.1	94.6	◎	94.7	◎	1.1
		②グループ活動やICTを活用し、楽しみながら運動できる授 業の実践(保健体育のグループ活動を通して、課題解決に 向けてICTを活用したり、ゲームの作戦を考えたりするなど楽 しみながら取り組んでいる)	94.1	◎		93.4	◎			-0.7
	危機管理能力の 育成	③自分の命は自分で守る (意識の醸成定期的な避難訓練、感染症予防や交通安全な ど、自分の命は自分で守ろうと意識している)	97.8	◎		96.2	◎			-1.6
	保健安全指導の 徹底	④早寝・早起き・朝ごはんの推進 (自分は、早寝・早起きをし、朝食を食べている)	85.9	○		86.3	○			0.4

グランドデザインの各項目の平均を見ると、評価◎(達成度90%以上)は全項目中15項目、評価○(達成度80%～90%未満)が4項目と高い評価が得られました。前回(7月)のアンケートから今回の結果を比較すると、「夢や目標をもって取り組んでいる」の数値が、他の項目より高い伸びが見られました。また、「思いやりや感謝の気持ちをもって生活している」、「自分の考えや思いを伝えようとしている」、「学校行事に積極的に取り組んでいる」、「早寝・早起きをして、朝食を食べている」の項目に対して伸びが見られました。反面、前回よりも数値の伸びが特に低かった項目については、「地域のために役立とうとしている」、「体験活動に積極的に取り組んでいる」、「エンカウターの実施により、関係づくりに生かしている」等が挙げられます。今後の対策として、これまで行ってきた職業体験や農業体験の他にも、地域のごみ拾い活動や地域行事への参加など、地域貢献に向けた場を設定する方向で予定しています。人間関係づくりについては、今後も教育活動の場面において友達との関わりを大切にしながら、学級の一員であるという意識(自己有用感や自己存在感)のもてる指導を行ってまいります。

学校グランドデザインと学校評価に係るアンケートの結果（保護者）

令和6年度12月 銚田市立銚田北中学校 項目別評価 ◎90%以上 ○80%以上 □70%以上 ☆60%以上 ×50%以上 ××50%未満

グランドデザインと学校評価に関する項目		保護者アンケートの結果							
		7月	達成度	7月	12月	達成度	12月	達成度	増減
期待する生徒像	①目標を達成するために努力できる生徒 (家庭での役割を意図的に与えたり、お子さんの目標達成に向けた粘り強い取組を支援したりしている)	88.1	○	78.0	86.6	○	80.3	○	-1.5
	②自分で考え、判断し、行動できる生徒 (お子さんは日頃から、自ら考え判断しながら行動している)	82.1	○		88.2	○			6.1
	③思いやりと感謝の心をもてる生徒 (お子さんは日頃から、思いやりや感謝の心をもって生活している)	94.9	◎		90.6	◎			-4.3
	④地域との絆を大切にし、「貢献」できる生徒 (お子さんは日頃から、地域のために役立とうとしている)	47.0	××		55.9	×			8.9
めざす教師像	①常に学び続ける教師								
	②一人一人の生徒に最後までかかわれる教師								
	③組織の中で協働できる教師								
学校経営	①組織目標 自分の考えや思いを伝え合う力を高める (学校が「自分の考えや思いを伝え合う」を本年度のキーワードとして取り組んでいることを理解している)	80.3	○	80.3	74.8	□	74.8	□	-5.5
確かな学力	①生徒が考えを伝え合える場の設定			84.4			88.0	○	
	②対話や説明をする上での生徒のICTの活用 (学校はICT機器を活用し、自分の考えや思いを伝え合う授業を行っている)	88.1	○		89.0	○			0.9
	③生徒の考えを引き出す学習課題や発問の工夫 (学校は授業を通して、学習課題や発問の工夫を行い、生徒の意欲を高めている)	85.5	○		90.6	◎			5.1
	④確実な振り返りの実施【できたこと・分かったことのアウトプット】								
	⑤ミニテストの実施 (学校はミニテスト等を実施しながら、学習の基礎基本の定着を図っている)	89.7	○		92.1	◎			2.4
	⑥個に応じた指導 (学校は、生徒一人ひとりに応じた学習指導をしている)	74.4	□		80.3	○			5.9
豊かな心	①学級活動、集会等で生徒が自分の考えを伝え合う場の設定			93.2			93.7	◎	
	②生徒がつくる学校行事 (学校は生徒主体となる学校行事の活性化を図っている)	97.4	◎		96.1	◎			-1.3
	③仲間同士をつなぐエンカウンターの実施								
	④人権教育の推進								
	⑤教育相談の充実(SCとの連携) (チーム担任制は、教育相談の充実に有効である)	84.7	○		91.4	◎			6.7
	道徳教育の充実								
	⑥職業体験、農業体験等 (学校は、地域との連携を通して、様々な体験活動の充実を図っている)	97.5	◎		93.7	◎			-3.8
健やかな体づくり	①体育の授業における運動量の確保			91.5			92.9	◎	
	②グループ活動やICTを活用し、楽しみながら運動できる授業の実践								
	③自分の命は自分で守る (学校は、訓練活動や保健・安全に向けた生徒への啓発を行っている)	95.8	◎		95.3	◎			-0.5
	④早寝・早起き・朝ごはんの推進 (生徒は、日頃から早寝早起きをし、朝食を摂っている)	87.2	○		90.5	◎			3.3

グランドデザインの各項目の平均を見ると、評価◎（達成度90%以上）は全項目中8項目、評価○（達成度80%～90%未満）が4項目という評価が得られました。前回（7月）のアンケートから今回の結果を比較すると、◎の評価が増えるなど数値的に高い評価が得られました。項目で見ると、「自ら考え判断しながら行動している(+6.1%)」、「「地域のために役立とうとしている(+8.9%)」、授業改善のための「学習課題や発問の工夫を行い、意欲を高めている(+5.1%)」、学力の定着に向けた「個に応じた学習指導をしている(+5.9%)」、「チーム担任制は、教育相談の充実の有効である(+6.7%)」という結果でした。反面、今後の改善が特に必要な項目について、「思いやりと感謝の心をもてる生徒」の育成に向けて、道徳教育や人権教育などを通して指導の継続を図っていきます。また「自分の考えや思いを伝え合う力を高める」育成に向けて、日頃の取組状況や成果について十分お伝え出来なかったところについては、今後の改善につなげたいと思います。その他、保護者の皆様からいただいたご意見やご要望につきまして、教職員一同、内容の共有を図りながら改善すべきところを今後の教育活動に活かしてまいります。

鉾北ひまわり学園に関するアンケート

(資料4)

令和7年2月26日(水)実施

項目別評価 ◎90%以上 ○80%以上 □70%以上 ☆60%以上 ×50%以上 ××50%未満

		アンケート結果	
		肯定的評価	達成度
1	グラントデザインがよく説明され、よく理解できている。	94.4	◎
2	グラントデザインが、教育活動に効果的に活かされている。	83.3	○
3	保護者と地域住民が一体となって取り組むことができている。	44.5	××
4	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある。	72.3	□
5	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある。	100.0	◎
6	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある。	94.5	◎
7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている。	88.9	○
8	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある。	72.2	□
9	学校側の提案事項を承認するだけではなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある。	66.7	☆
10	学校評価などの各種の評価を活かした改善について、議論が行われている。	66.7	☆
11	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	33.4	××
12	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある。	44.4	××
13	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている。	50.0	×

今年度より、鉾北ひまわり学園（学校運営協議会）の取組が始まりました。「地域を愛し、地域に愛される子どもたちを育てる」を目標に、地域と学校の連携・協働のもと生徒自らが地域を大切に、地域のために貢献できる生徒の育成に努めてまいります。

初年度の結果について、今年度の課題を捉えながら次年度に活かしていけるよう努めていきたいと思ひます。